
国際学会参加報告

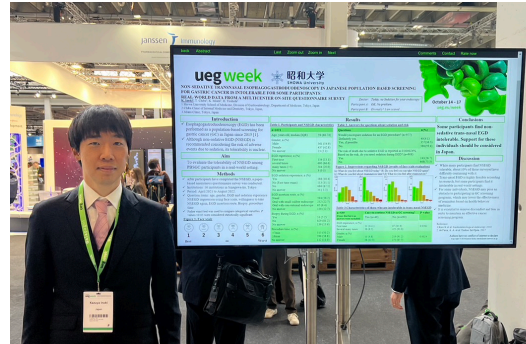
第 31 回 UEGW に参加して

居軒 和也

昭和大学医学部 内科学講座消化器内科学部門

このたび、日本消化器がん検診学会の国際学会参加支援の対象としていただき、大変光栄に存じます。この場をお借りして関連各位ならびに学会員の皆様に心より感謝申し上げます。

2023年10月14日-17日デンマークの
コペンハーゲンで開催された、第31回



UEGW (31st United European Gastroenterology Week/欧州消化器病週間)に参加させていただきましたのでご報告させていただきます。今回も現地開催とオンラインのハイブリット開催でしたが、11243人が参加登録を行い、87%が現地出席を選択していました。参加国の上位は、イギリス、イタリア、ドイツ、アメリカ、オランダであり、日本は6位で383人の参加者でした。演題に関しては、3858演題から2666演題が選択され、2400演題以上はe-poster形式の発表でした。

学会では、消化器がん、消化管内視鏡、人工知能、胆膵内視鏡、炎症性腸疾患、腸内細菌、など広く消化器病に関するセッションが行われていました。企業展示ではUEGWに限らず国内学会やアメリカのDDWでも同様ですが、炎症性腸疾患治療薬の企業ブースが目立つ印象でした。



私の演題は、対策型検診における胃内視鏡検査に関する検討で、通常のe-poster形式の発表でした。e-poster用の画面が会場に設置されており、参加者がいつでも見られる形でした。この形式は、データをアップロードするだけで非常に簡便ですが、参加者が興味のある分野に自ら到達しなければならない分、情報伝達の方法としては問題があるように感じられました。私の発表に関して、

お一人のみご連絡を頂き、ご質問を頂きましたが、実際に一目でもポスターを見てくれた参加者の人数は限られるように思いました。欧州はCO2削減に先進的に取り組んでおり、Green Endoscopyの概念やガイドラインも欧州から発信されています。e-posterもそういった環境配慮の一つなのかもしれませんが、e-posterの発表形式の工夫はもう少し必要な

ように感じました。

学会全体として、様々な国々の先生方が発表、議論をされており、多施設研究も多く、非常に刺激を受けました。また、一緒に参加した後輩の先生と UEG night という Dinner party にも思い切って参加してきました。日本から自費で参加したのは私ども 3 人だけのように思いましたが、UEG の先生方の明るさとエネルギーに驚きつつもとても楽しい時間を過ごせました。今後も、海外の状況を踏まえつつ、我が国の消化器がんの減少に貢献できるよう、微力ながら活動を続けていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどを何卒よろしくお願いいたします。

* * *

2024 年 6 月 7 日（金）～9 日（日）第 63 回日本消化器がん検診学会総会（名古屋）において、国際学会参加支援対象者授与式後、国際学会参加支援に対する報告ならびに一般演題「対策型胃がん検診の無鎮静胃内視鏡検査の受容性:多施設前向きアンケート調査」で発表がされました。